会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和４年度職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進事業  （２）教職員の資質能力向上の推進①効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第2回実施委員会 |
| 開催日時 | 令和4年9月12日（月）　13時00分～15時00分 |
| 場所 | リファレンス西新宿 |
| 出席者 | 事業責任者：高岡　信吾  委　　　員：岡村　慎一、成底　敏、泉田　優、柳田　祐大、  小田　政江、八木　信幸、猪股　昇（OL）  計8名  請負業者：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　　計1名  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計9名 |
| 議題等 | １．知識系分野学習用動画コンテンツの追加（成底）  ・情報公開の必要性（募集広報に囚われないＩＲにシフト）は、日本電子専門学校船山校長に相談していましたが、法人が大学法人であることで一般的な専門学校の参考にならないのではないかという観点から今回辞退することになりました。  ・職業教育のマネジメントの有用性（採用（調達）・配置・評価）について現在、三菱総研の藪本様に連絡しています。大学は経営と教学が分離しているが、専門学校は分離していない等の特徴を踏まえ、文科省から受託している同社の情報などをまとめてお話しいただくこととしたいと思っています。  ・私立学校法改正（社会からの要請・改正の必要性）は文科省私学行政課長である滝波様に依頼済です。しかしながら今後の法案審議等の状況によって最終判断をしていくことでまとまっています。  ・私立学校法の案件はいつ頃ハッキリするのでしょうか？（高岡）  ・はっきりした答えは出来ません。ただ、肌感覚として年内での制定は難しそうだと感じています。（成底）  ・日本電子専門学校に代わる学校の案はあるのか？  ・今後、検討していきたいと思います。（成底）  ２.情報公開セミナーの開催（成底）  ・事例紹介、グループワークを含めた4時間程度の時間で実施したいと思います。  ・日程は、令和4年11月28日（月）13：00～17：00で東京にて対面形式で実施いたします。  ・研修内容は、   1. 「情報公開の現状と今後の展望（仮題）」をテーマに岡村委員に講師を依頼したいと思います。 2. 「情報公開の必要性と取り組み事例（仮題）」をテーマとしましたが、日本電子専門学校が辞退しましたので検討が必要となりました。   ③「学校情報の周知への取り組み（仮題）」については、事例発表を考えています。現在、「学校特性や地域特性における学生の成長変化について（仮題）」をテーマとしてＹＩＣ学院にお願いしたところです。   1. ・情報公開の必要性については、募集状況の強化をテーマとするのではなく、情報を公開することによって社会的責任を果たしていくこと等を話していただくことを目指してください。（岡村） 2. ・学校の情報の周知の取組については、当校にて教育内容を取りまとめた冊子を作り、学生に学習内容の説明をするチャレンジをしています。（泉田）   ・昨年度の穴吹学園さんのイメージでしょうか。（八木）  ・昨年度の穴吹さんを参考に当校にて本年度から開始したないようです。（泉田）  ・一度、龍馬学園内で調整していただけますか（高岡）  ・YIC学院の発表は、私が担当します。入学から卒業までの間を通じて学生の成長を見えるかする内容としようとおもいます。（小田）  ３.職業教育マネジメントセミナーの開催（成底）  ・こちらも、事例紹介、グループワークを含め4時間程度のセミナーを開催したいと思います。  ・日程は、令和4年11月29日（火）9：00～12：00に東京にて対面形式で実施することを考えています。  ・研修内容は、   1. 「職業教育マネジメントの取り組み事例」②「職業教育マネジメント構築へ至るプロセスと課題」をテーマとして学校法人小山学園　白井校長にお願いします。 2. 「職業教育マネジメントの有用性（仮題）」をテーマとして、三菱総研　藪本様にお声がけをしています。 3. 「私立学校法改正について」をテーマとして、文科省私学行政課長である滝波様にお願いしています。こちらも法案によって調整が必要となります。また、講話の方法は対面・オンラインのどちらにするかは追って調整となります。   ・内容的には良いと思います。これで進めてください。文科省の対応は慎重にお願いします。（高岡）  ４.e-learingマネジメントシステムの構築（猪俣）  ・令和3年度に開発した10本の動画コンテンツおよび令和4年度に開発を予定する3本の動画コンテンツを加えた13本の動画コンテンツのインターネット配信と受講者管理を行うためのシステムを開発するよていです。  ・開発日程は、①7～10月を目途にシステム開発②10～1月にテスト運用開始③2～3月に令和5年度以降のシステム運用体制を整備について検討することといたします。  ・普及に関しては、全国専修学校各種学校総連合会、一般財団法人職業教育、キャリア教育財団、都道府県専修学校各種学校協会、一般社団法人全国専門学校情報教育協会などの協力を得て普及していきたいと思います。  ・開発は予定通り進むのか（高岡）  ・本年度開発するコンテンツがいつ頃出来上がるのかによって変動すると考えています。特に私立学校法の案件が気になります。（成底）  ・e-learningについては、コンテンツの視聴終了後に何らかの確認は行うのか（岡村）  ・この辺りは運営委員会にて検討します。  ・受講修了証のようなものは出しますか（八木）  ・この件も運営委員会にて検討します。  ５．申請業務効率化アプリ開発（猪俣）  ・目的は、各種申請書類作成における「ムリ、ムダ、ムラ」を洗いだし、これを省くためのアプリケーションを開発し、各校の専門スタッフが短時間かつ一定の質を担保した効率的な業務遂行ができるよう支援するものを開発します。  ・具体的には、職業実践専門課程申請、修学支援新制度、学則変更等の申請書類作成を対象とし、業務の排除、結合、交換、簡略化を行うためのアプリケーションを開発普及することになります。  ・スケジュールは、①7～10月を目途に要件分析・要求仕様書作成②10～12月にアプリ開発および利用説明動画作成、③1～2月にアプリケーション動作確認④3月アプリケーションリリースを予定しています。  ・要求仕様の作成方法はどのように考えていますか（高岡）  ・昨年度に当会が受託した共通基盤整備事業の中の自己点検評価シート作成の際に、情報を得ていますので、この辺りを集約して作る形を考えたいと思います。（八木）  ・アプリのイメージはどのようなイメージですか（高岡）  ・まずは、ＲＦＰを作成し、その内容を反映させたいと思います。（成底） |
| 配布資料 |  |

以上